

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移
(最近の動向)

令和5年6月20日
四国森林管理局

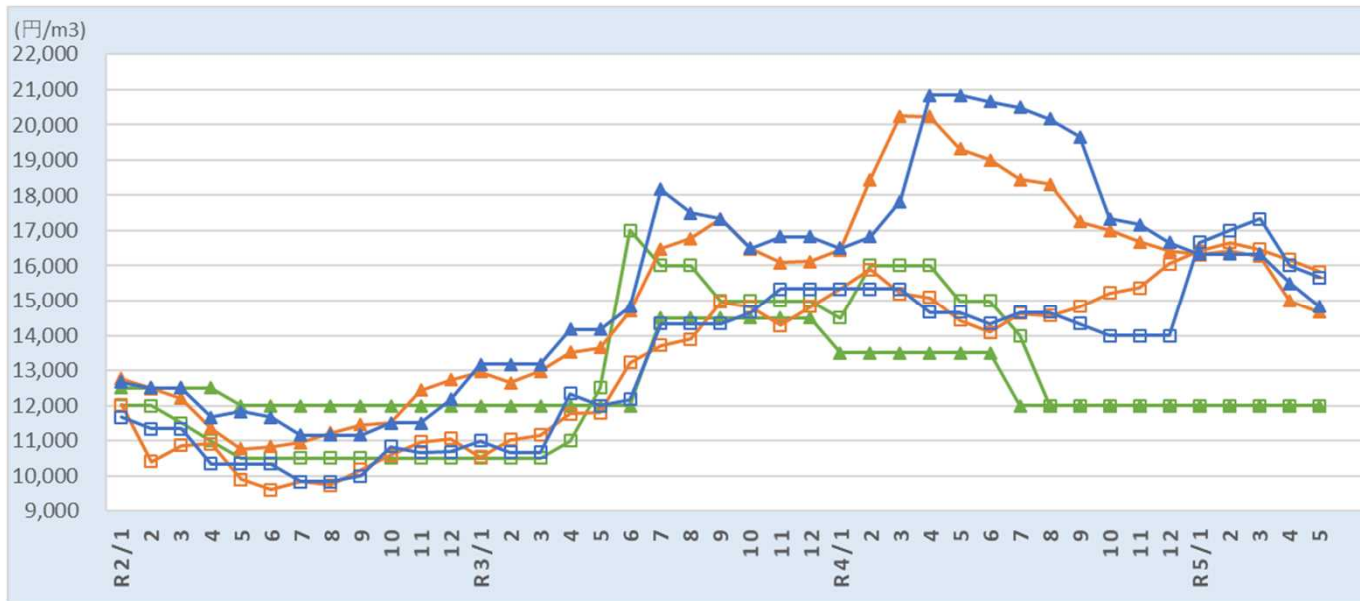
目次

I	管内における原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材の入荷量及び在庫量の推移	7
2	製材品の出荷量及び在庫量の推移	8
3	製材品価格の推移	9
III	全国の丸太価格の動向	10
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	12
2	全国の住宅着工戸数の推移	13

Ⅰ 管内における原木市場・共販所の状況

1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 愛媛県、高知県では、令和4年の年明けから4月にかけて3m材の引き合いが良くなり価格が高騰、その後は軟調相場に移行したものの高い水準が続いた。秋口からは4m材も引き合いがみられ、令和5年3月までは高い水準が続いたが、4月以降は3m材4m材ともに再び軟化、価格は下落傾向に転じた。
- 徳島県は、令和4年7月以降軟調相場で推移し、価格は令和2年の水準まで下落、以後は低い水準が続く。
- 令和5年5月のスギ丸太価格は、前年同月比71%から110%で推移。



○ 5月のスギ丸太価格 (円/m³)

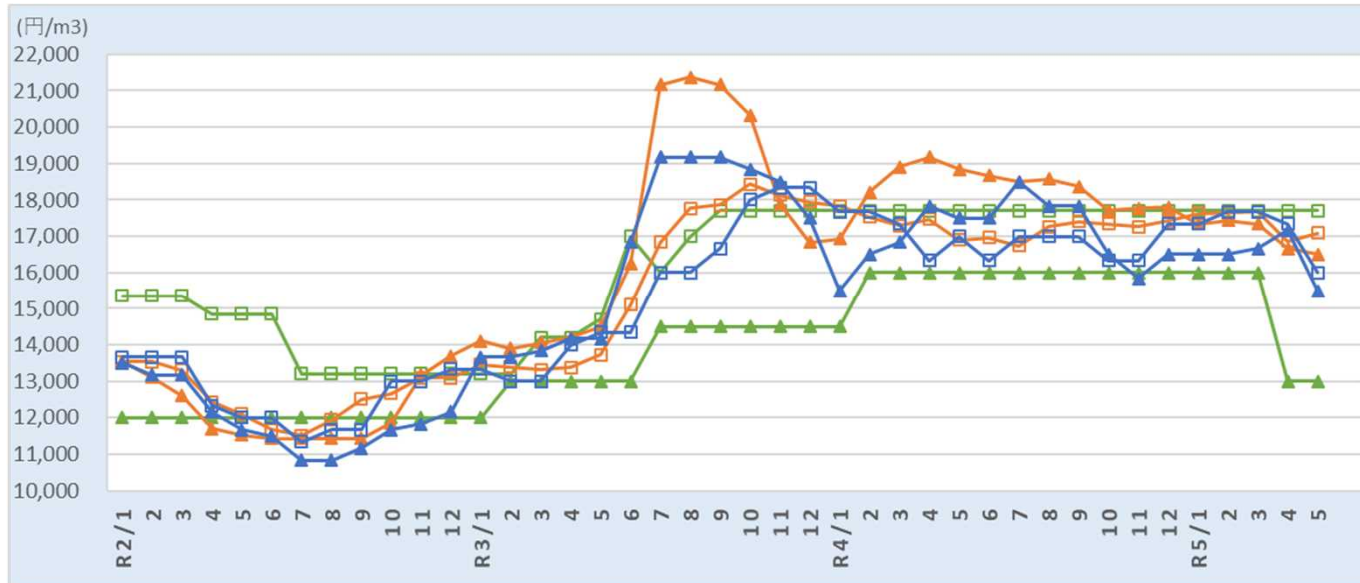
県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	▲ 3 m材	12,000	13,500	89%
	□ 4 m材	12,000	15,000	80%
愛媛県	▲ 3 m材	14,668	19,310	76%
	□ 4 m材	15,833	14,433	110%
高知県	▲ 3 m材	14,833	20,833	71%
	□ 4 m材	15,667	14,667	107%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格

資料：四国森林管理局調べ

1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 中目材は、3県ともに令和4年の年明け以降年間を通して高い水準で安定したが、令和5年4月に入り引き合いが弱まったことから軟化、価格は下落傾向に転じた。特に3m材については、徳島県で3,000円安、高知県で2,000円安。
- 令和5年5月のスギ丸太価格は、前年同月比81%から101%で推移。



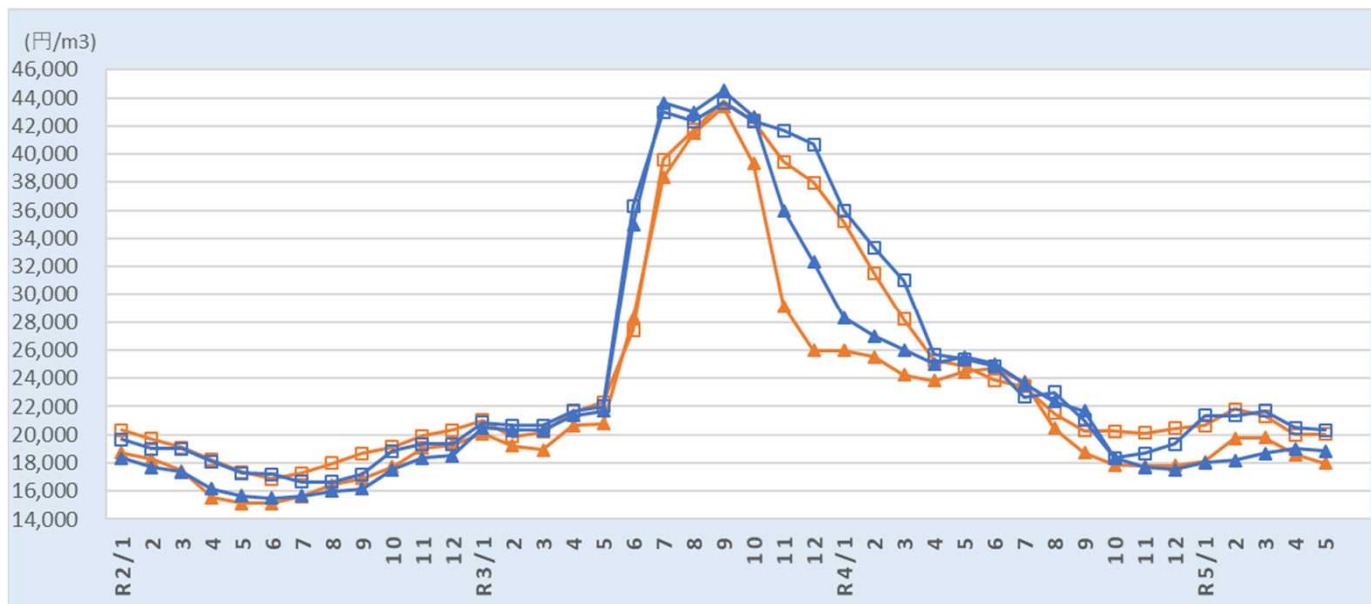
○ 5月のスギ丸太価格 (円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	▲ 3 m材	13,000	16,000	81%
	□ 4 m材	17,700	17,700	100%
愛媛県	▲ 3 m材	16,500	18,837	88%
	□ 4 m材	17,083	16,903	101%
高知県	▲ 3 m材	15,500	17,500	89%
	□ 4 m材	16,000	17,000	94%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格
資料：四国森林管理局調べ

1-(3)丸太価格の推移 (ヒノキ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- ウッドショック以降、令和4年に入ってから価格の続落が止まらず、10月には3m材4m材ともに令和2年同時期の水準まで下落した。
- その後は、買方の引き合いがみられるようになり一時は価格の持ち直しがみられたものの、直近においても上向くほどの引き合いはなく相場は低い水準が続く。
- 令和5年5月のヒノキ丸太価格は、対前年比73%から81%で推移。



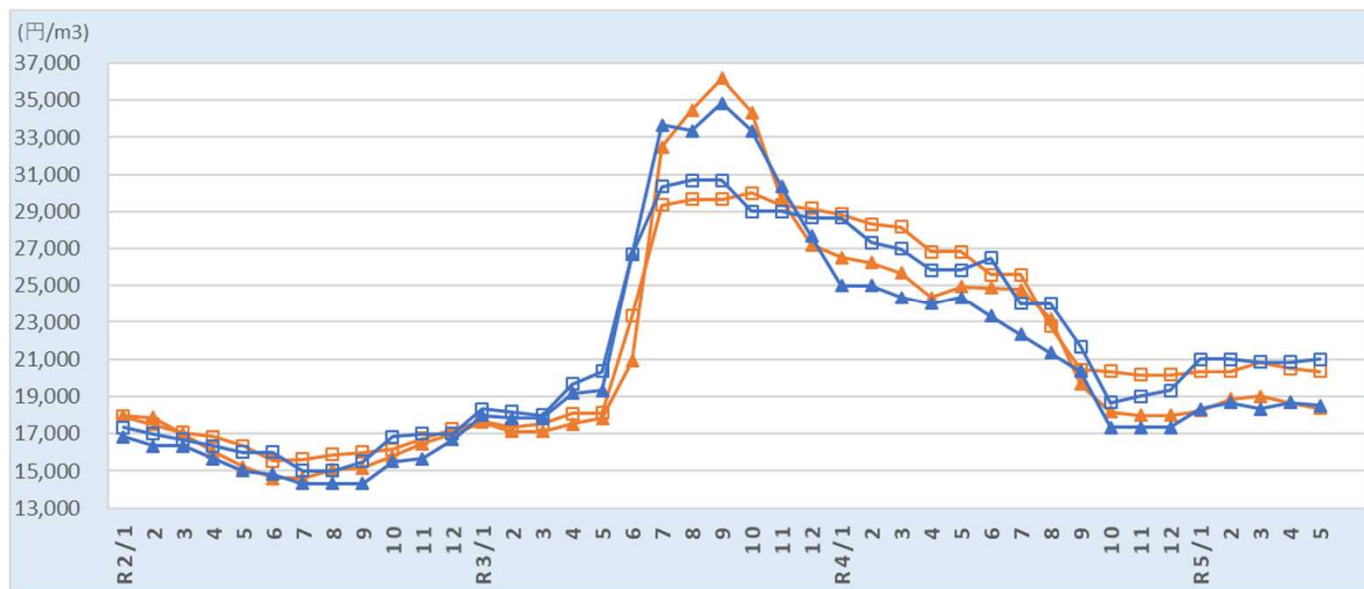
○ 5月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
愛媛県	▲ 3m材	17,953	24,427	73%
	□ 4m材	20,020	24,833	81%
高知県	▲ 3m材	18,833	25,500	74%
	□ 4m材	20,333	25,333	80%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格
資料：四国森林管理局調べ

1-(4)丸太価格の推移（ヒノキ、径18cm～22cm 長3m材・4m材）

- 中目材もウッドショック以降、令和4年に入ってから価格が続落、7月からは一段と下げ幅が拡大したものの10月に入り下げ止まりがみられ、4m材を中心に価格の落ち着きがみられたが、価格は低い水準となった。
- 令和5年1月には、一時、価格の持ち直しがみられたものの、直近においても概ね横這いの低い水準が続く。
- 令和5年5月のヒノキ丸太価格は、対前年比72%から77%で推移。



○ 5月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

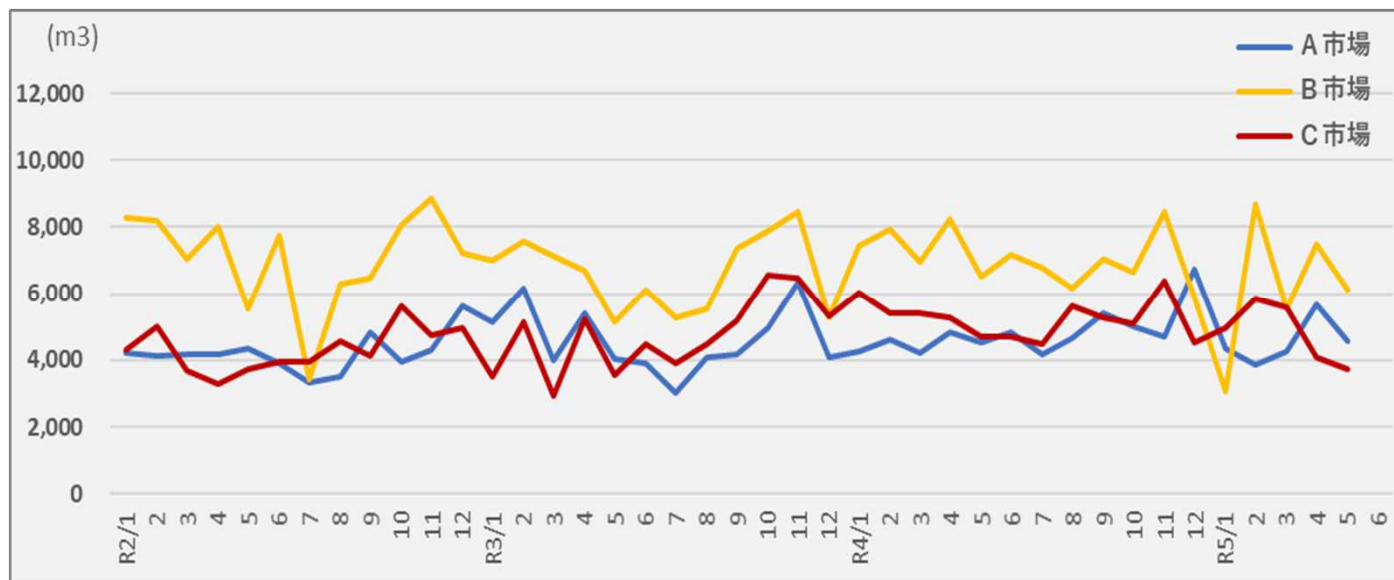
県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
愛媛県	▲ 3m材	18,867	26,233	72%
	□ 4m材	20,333	28,333	72%
高知県	▲ 3m材	18,667	25,000	75%
	□ 4m材	21,000	27,333	77%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格
資料：四国森林管理局調べ

Ⅰ 管内における原木市場・共販所の状況

2-(1) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

- 久万地区では12月～1月に積雪の影響により出材の遅れで入荷量が減少、その反動で2月は一時的に入荷の増加がみられたが、直近の入荷は落ち着いている。
- 5月の入荷量は、3市場ともに前月より減少。
- 前年同月と比べ、79%～101%で推移。



市場関係者のコメント

【出材量】

・スギは減少傾向。ヒノキは概ね横這い。

【価格】

・スギは全般的に弱保合。特に3.4m大径材は買い手がつかず販売に苦戦。
・ヒノキは概ね保合（下げ止まりの様子）。

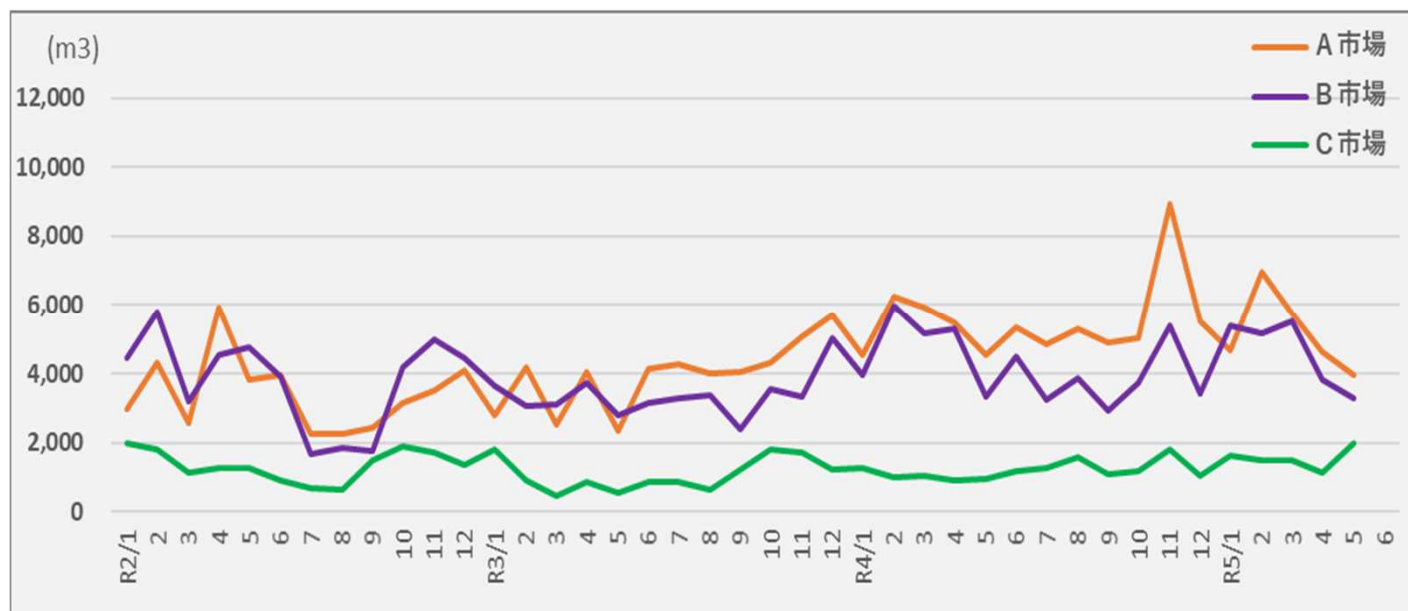
【材の引き取り】

・原木の引き取りは鈍化。特にスギは土場にダブつき感がある。

資料：四国森林管理局調べ

2-(2) 丸太取扱量の推移（高知県）

- 2～3月は天候に恵まれ、順調な入荷がみられたが、4月に入り減少傾向となった。
- 前年同月と比べ87%～210%で推移。



市場関係者のコメント

【入荷量】

- ・民材の出材は概ね横這い。
- ・出材樹種はスギの割合が多い。
- ・梅雨に入ったこともあり、今後の出材は横這い若しくは減少と見込む。

【価格】

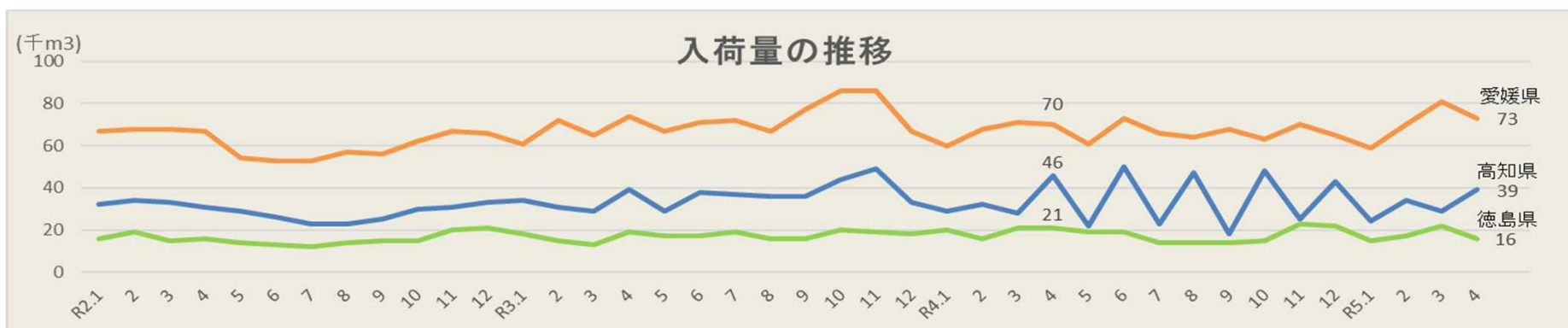
- ・スギは総じて弱含んでおり、特に大径材は買い手が見つからず売りづらい状況にある。
- ・スギの買方動向は今後もしばらくは悪い状況が続くと予想。

資料：四国森林管理局調べ

II 管内における製材等の状況

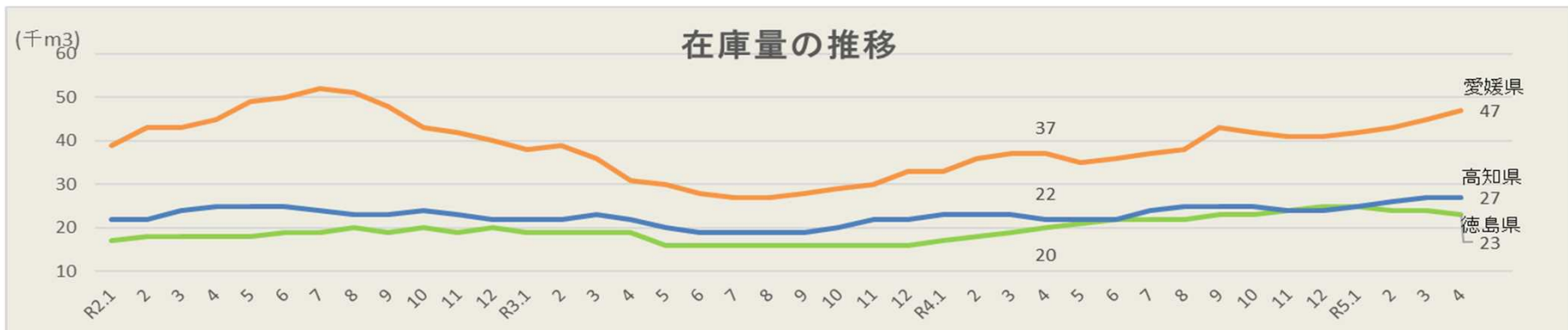
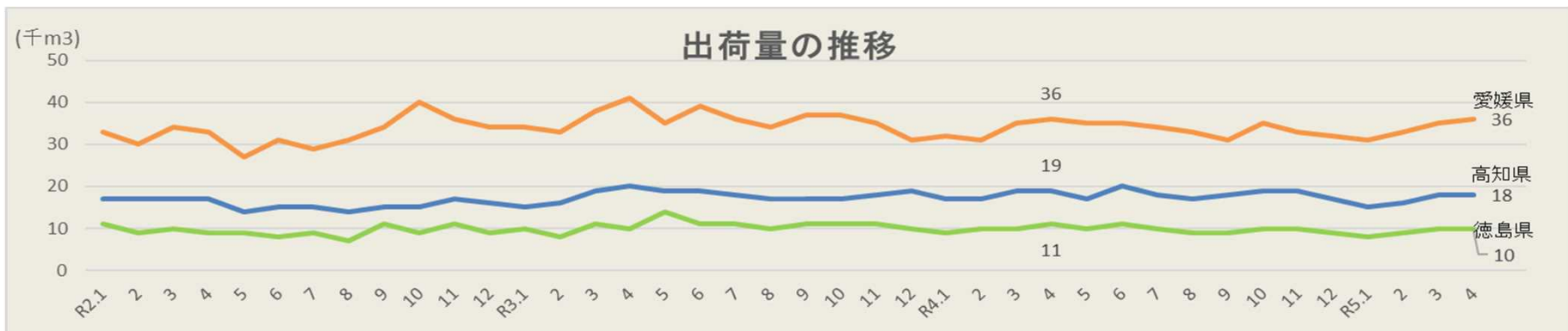
1. 製材用素材の入荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和5年）

- 製材用素材の入荷量は、高知県では令和4年4月頃から月ごとの大きな変動がみられたものの、各県ともに概ね例年並みで推移。
- 在庫量は、令和4年は僅かながらも減少傾向もみられたが、令和5年に入り、徳島・愛媛県では、再び増加傾向で推移。
- 特に、愛媛県は令和3年11月以降高い水準が続く。



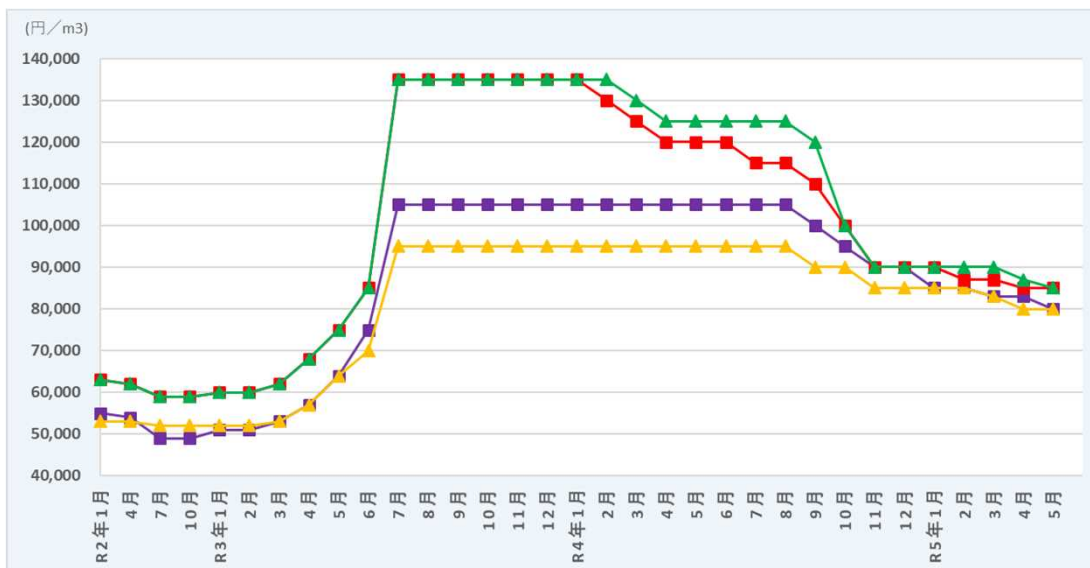
2. 製材品の出荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和5年）

- ▶ 製材品の出荷量は、年末から令和5年1月にかけて一時減少傾向が見られたが、2月以降は再び増加傾向に転じており、直近では、各県ともに概ね昨年同時期と同水準。
- ▶ 在庫量は、ウッドショック以後、増加傾向が継続しており、直近では令和2年同時期の水準を上回る状況。



3. 製材品価格の推移

- ウッドショックによる国産材需要の高まりも令和4年に入り、ヒノキ製品は春先から、スギ製品は9月頃から相場が下落。また、10月頃からはスギとヒノキの価格差も殆どなくなった。
- 最近も国産材製品は全国的に地合いが緩い状態が続いており、ウッドショック前に比べると一段高で推移しているものの、相場はじり安傾向が続く。



国産材製品の相場（愛媛県）令和5年5月

(円/m³)

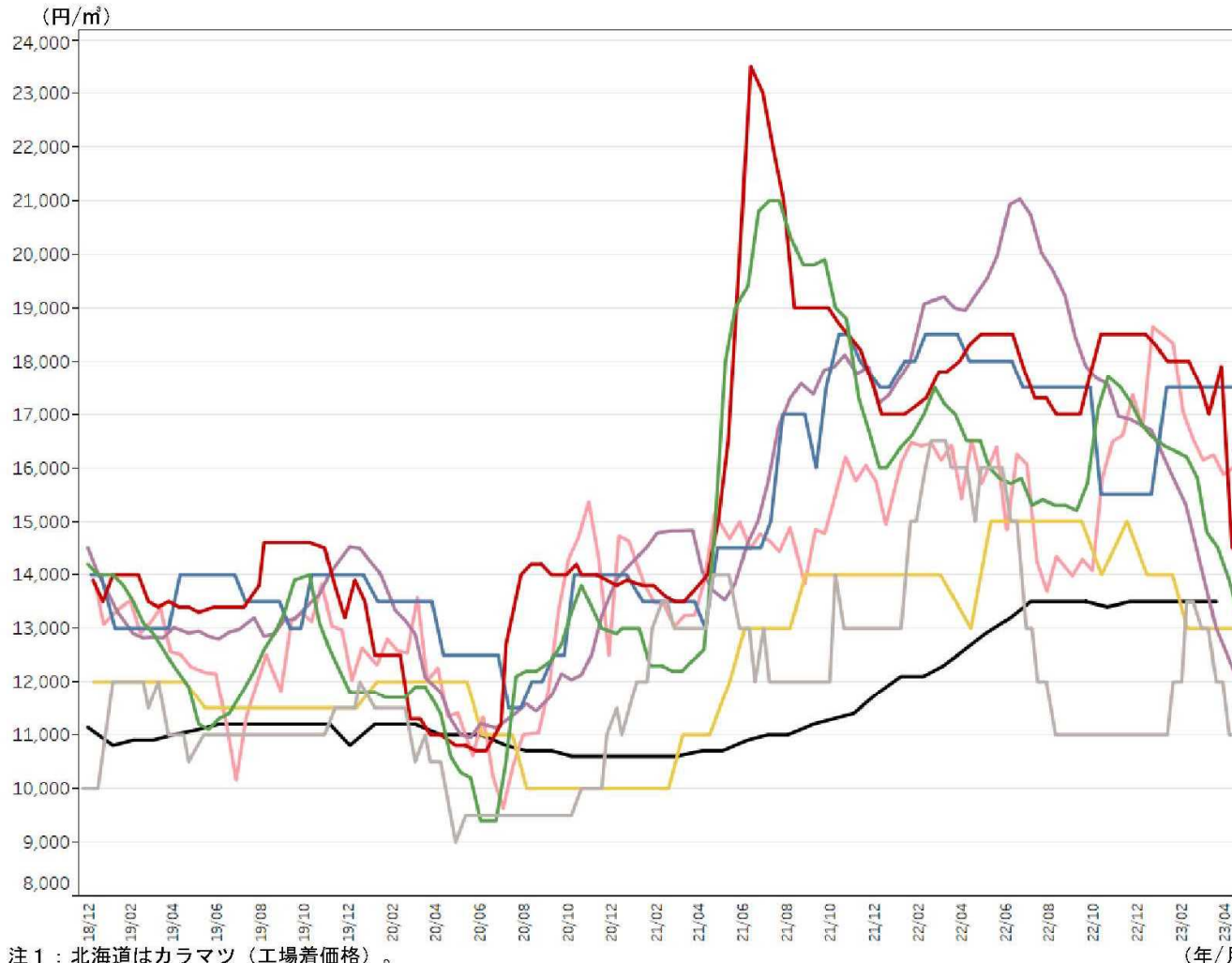
	品目	当月	前年同月	前年同月比
スギ	■ 柱 3 m × 105mm角KD特等	80,000	105,000	76%
スギ	▲ 間柱 3 m × 105 × 30mm角KD特等	80,000	95,000	84%
ヒノキ	■ 柱 3 m × 105mm角KD特等	85,000	120,000	71%
ヒノキ	▲ 土台 4 m × 105mm角KD特等	85,000	125,000	68%

資料: 日刊木材新聞

Ⅲ 全国の丸太価格の動向

ア スギ(全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、11,000円~17,500円/m³となっている。



(単位: 円/m³)

都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,500	12,600	107%
秋田県	12,000	19,240	62%
栃木県	15,850	15,700	101%
長野県	13,000	13,000	100%
岡山県	11,000	16,000	69%
高知県	17,500	18,000	97%
熊本県	14,500	18,500	78%
宮崎県	13,200	16,500	80%

※北海道については3月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については4月の値を使用。

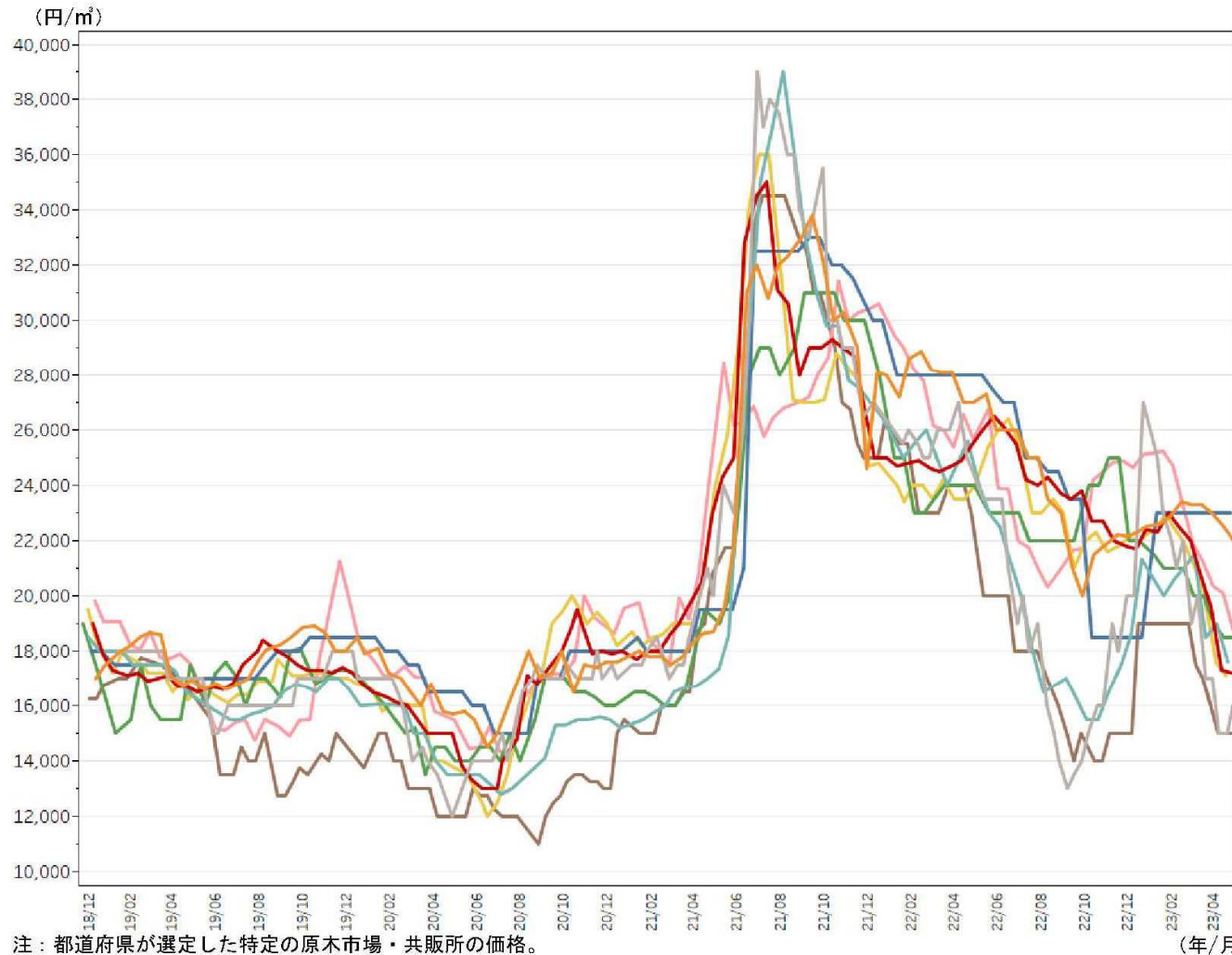
注1: 北海道はカラマツ(工場着価格)。

注2: 都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料: 林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、15,000円～23,000円/m³となっている。



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(単位：円/m³)

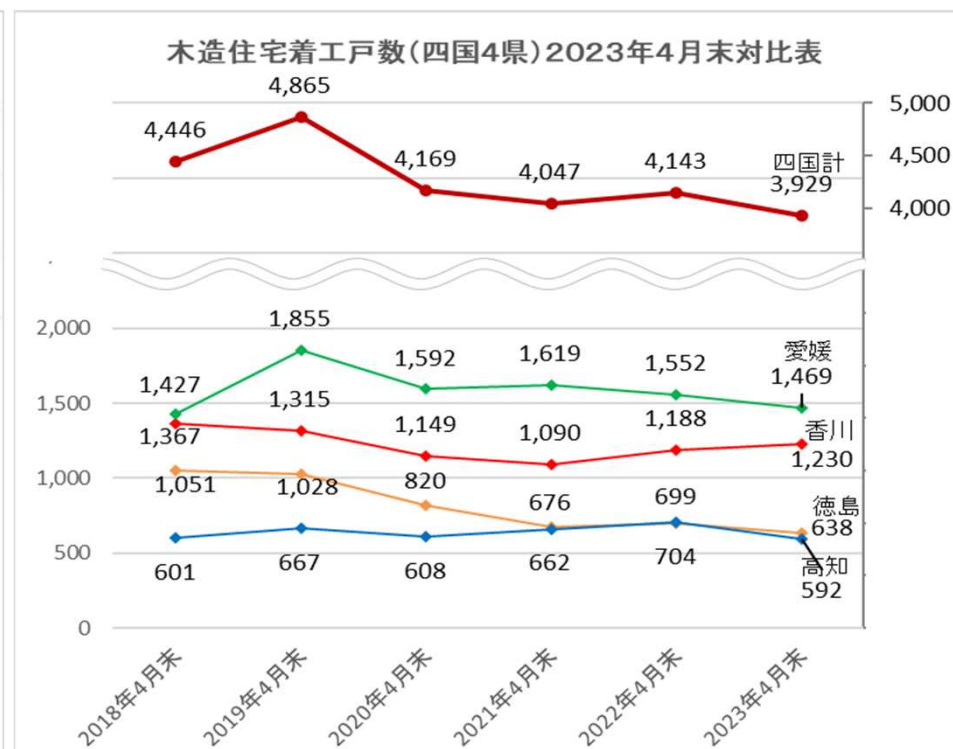
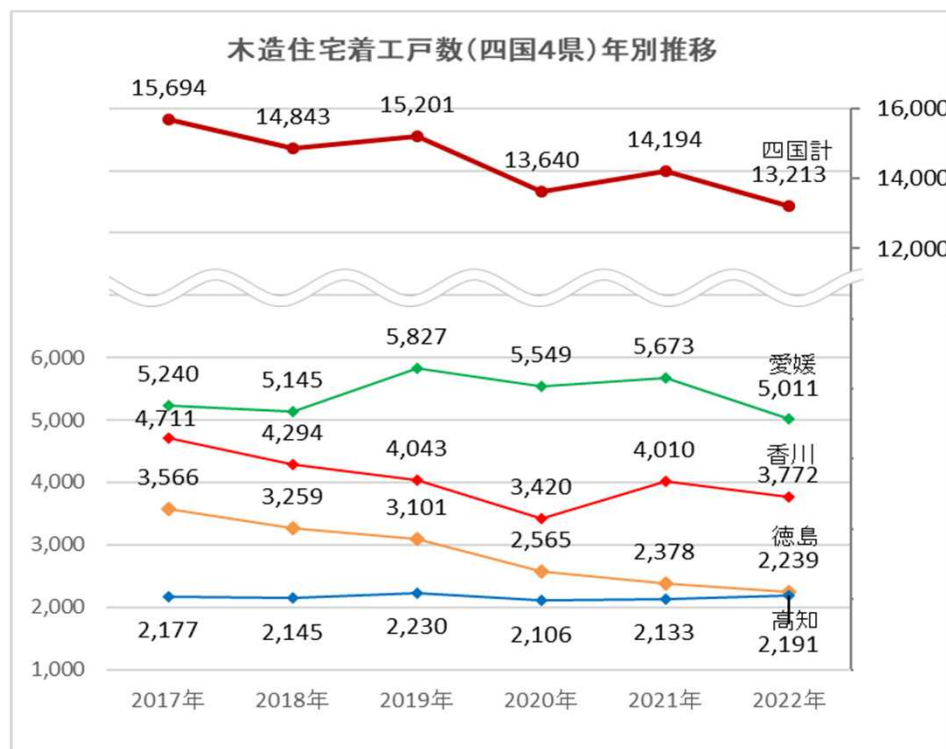
都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	18,800	25,660	73%
静岡県	18,500	24,000	77%
兵庫県	15,000	23,000	65%
岡山県	16,000	24,500	65%
広島県	17,600	25,600	69%
愛媛県	22,000	27,000	81%
高知県	23,000	28,000	82%
熊本県	17,200	25,500	67%
大分県	17,100	23,500	73%

※各県4月の値を使用。

IV 住宅着工戸数

1 四国における木造住宅着工戸数の推移

- 四国における2022年の木造住宅着工戸数は 13,213戸（前年比93.1%）となり、2020年を更に下回って過去10年間で最も低い着工戸数となった。
- 2023年4月末の木造住宅着工戸数は3,929戸（前年同期比94.8%）、県別では、徳島県 638戸（同91.3%）、香川県 1,230戸（同103.5%）、愛媛県 1,469戸（同94.7%）、高知県 592戸（同84.1%）で、香川県を除き前年同期を下回った。

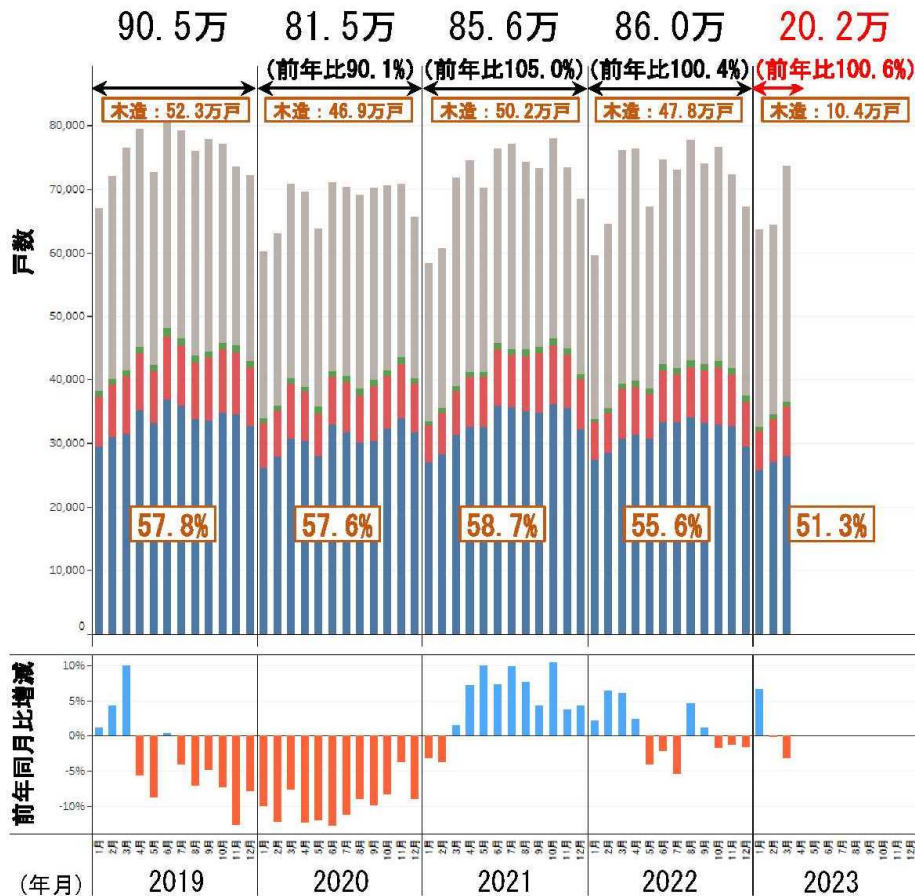


資料:国土交通省「住宅着工統計」

2 全国の住宅着工戸数の推移 (2019年1月～2023年3月)

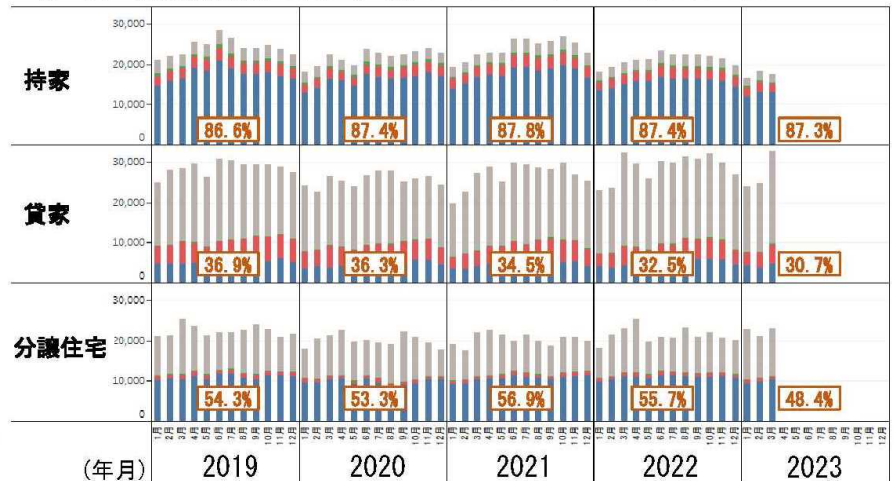
- 2022年の新設住宅着工戸数は、86.0万戸（前年比100.4%）、このうち木造住宅は47.8万戸（同95.1%）となり、2021年の水準を下回った。
- 2023年1～3月の新設住宅着工戸数は、20.2万戸（前年同期比100.6%）、このうち木造住宅は10.4万戸（同95.6%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2023年 1～3月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	201,723	200,424	100.6%	190,999	105.6%
■非木造	98,193	92,078	106.6%	83,143	118.1%
木造	103,530	108,346	95.6%	107,856	96.0%
■木造プレハブ	2,344	2,043	114.7%	2,169	108.1%
■2×4	20,592	19,969	103.1%	19,537	105.4%
■在来軸組	80,594	86,334	93.4%	86,150	93.6%
□木造率	51.3%	54.1%		56.6%	

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

分析結果

(ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

(調査月 令和5年1月～令和5年4月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続(5ヶ月以上)

(調査月 令和5年1月～令和5年4月)

【スギ中丸太】 ・ 2月以降、5ヶ月以上連続した動き(上昇または下落)はなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 4月時点で5ヶ月連続の上昇。

(ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

(調査月 令和5年1月～令和5年4月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

(調査月 令和5年1月～令和5年4月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

(調査月 令和5年1月～令和5年4月)

【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領(平成25年7月30日付け25四資第19号)の2の(ア)から(オ)に係る確認

[判断基準・指標]

- 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認
- 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用

○ 丸太価格、在庫率の変動

1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 5.86%				逸脱下限値 -5.89%				逸脱上限値 21.82%				逸脱下限値 -20.77%				逸脱上限値 17.46%				逸脱下限値 -16.94%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月								
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-1.24%	0.27%	1.35%	-1.99%	-7	1	2	-1	-10.77%	-14.91%	-18.59%	-20.17%	-10.50%	-10.11%	-10.13%	-13.09%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 9.17%				逸脱下限値 -9.45%				逸脱上限値 40.19%				逸脱下限値 -41.57%				逸脱上限値 30.09%				逸脱下限値 -33.16%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月								
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	3.77%	0.80%	4.62%	2.84%	2	3	4	5	-36.59%	-33.75%	-28.21%	-25.58%	-29.26%	-28.80%	-26.84%	-26.22%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	1月	2月	3月	4月
製材用素材(徳島・愛媛)	1.37	1.48	1.63	1.63
製材用素材(愛媛・高知)	1.33	1.42	1.42	1.46

逸脱上限値	逸脱下限値
1.88	0.81
1.58	0.89

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。

樹木採取権制度による令和4年度の木材取引実績について

樹木採取権制度による令和4年度の素材生産量は以下のとおりでしたので、報告します。

樹木採取区名	令和4年度素材生産量
四国1 四万十川上流樹木採取区	0 m3

(参考)

四国1 四万十川上流樹木採取区については、令和4年3月31日に樹木採取権が設定され、令和4年度から樹木採取権者による事業を開始しました。

この事業については、林野庁長官通知により、樹木採取区からの木材取引の実績を国有林材供給調整検討委員会に毎年度報告し、地域の木材需給等への影響について、当委員会において確認していただくこととなっています。